



# 志木二小だより

平成29年 11月号

志木市立志木第二小学校  
埼玉県志木市館1丁目2番1号  
電話 472-0540

//// 学校教育目標 **進んで学ぶ子 心の豊かな子 体をきたえる子** //

児童数	1学年	2学年	3学年	4学年	5学年	6学年	たんぽぽ	11/1現在	昨年同時期
	75	80	84	101	87	88	14	529名	538名

~ **祝50周年** いままでも これからも Now nor ever ~



## ぼかぼか言葉とちくちく言葉

校長 安田 一也

6年生が丹精込めて育てている菊のつぼみが日増しに膨らんできました。今年も見事な大輪の花が楽しめそうです。

さて、11月は、「いじめ撲滅強調月間」です。そこで、今月は「いじめ防止」をテーマにしたいと思います。

いじめは、「当該児童生徒が、一定の人間関係のある者から、心理的、物理的な攻撃を受けたことにより、精神的な苦痛を感じているもの」と定義されます。そのいじめの態様で筆頭に挙げられるものは、「ひやかしやかからかい、悪口や脅し文句等の嫌なことを言われた」とする「言葉」によるものです。

皆さんは、「ぼかぼか言葉・ちくちく言葉」というフレーズを聞いたことはありませんか。文字通り心を温める言葉と心を痛める言葉の意味で広く認識されています。

先日、その言葉に関連して興味深い記事を見つけましたので、紹介します。

『言葉の持つ力は、良きにつけ悪きにつけ相手だけでなく、自分も同じ影響を受ける。』人は思っていることを言葉にする。つまり、言葉にすることは、そう思っていることの表れ。また、繰り返し、言葉にするとそれだけ強く思っている言葉として意識される。だから、意識は行動に表れる。

このことから、「ぼかぼか言葉」は、快の気持ちを相手に与えると同時に自分にも快の気持ちをもたらし、「ちくちく言葉」は、その逆の不快な気持ちを相手だけでなく自分にも、もたらすと言えます。

いじめにつながる言葉の暴力は、相手を傷つけるとともに、何よりその言葉を発した自分自身を深く傷つけ、自尊感情を損ねてしまう行為なのです。

児童が、素のままの自分を表現しやすい休み時間や昼休みに、校内を回ってみますと、時として「キモい」「ウザい」などのちくちく言葉が耳に入ってくる場合があります。このような負の力をもつちくちく言葉が、使われ始めると無意識のうちに問題行動として表れることがあるので全職員で注意してまいりたいと思います。

今月は、特に「いじめ防止は言葉遣いから」を合言葉に、学校全体で言葉遣いに留意し、「ありがとう」「がんばれ」「だいじょうぶ」などのぼかぼか言葉の溢れる「あたたかく、心やすらぐ学校づくり」を推進していきます。